
死神への招待状

美崎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

死神への招待状

【Nコード】

N0959I

【作者名】

美崎

【あらすじ】

いつも暇だったダチヨウが出会ったのは、ウサギの首。ダチヨウと一緒に暮らしていると、ウサギはある旅行へと招待してくれると言った。死神になれる不思議な旅行へと。

ブローグ

ダチヨウは、今日も暇だった。

青い空…ぷつかりと浮かぶ雲…風に揺れる草…どれも、見飽きてしまった。

空を見ながら、飽き飽きしながら、ダチヨウはため息をついた。

すると、遠くから青い鳥が一匹、チュンチュンとこちらに飛んでくる。

目が合った。こちらにおいで、と言っている。

青い鳥を、ダチヨウはゆつくりと追いかけた。

離れすぎないように、だけど、近づき過ぎないように。

しばらく追いかけると、青い鳥は、上に飛んでいつてしまった。

ダチヨウは、青い鳥においていかれた。

だけど、ダチヨウは楽しそうなものを1つ拾った。

かわいいリボンの付いた、水色のサッカーボールくらいの大きさの箱。

ワクワクしながら、リボンを解く。箱のふたを開ける。

すると、中にはウサギの首が入っていた。

不思議そうにウサギの首を見ていると、目がぎょろつと動いて、目が合った。

真っ赤な目が、ダチヨウをしっかりと見ている。

ダチヨウは、新しい友達を見つけた。

1*ダチヨウの夢

ダチヨウとウサギの首は、出会ってから一緒に暮らし始めた。

ご飯に、お散歩、遊ぶときも、もちろん一緒だった。

遊んでいると、いつの間にか太陽はどこかへ行ってしまっている。

だけど、その代わりに小さな小さな星たちが暗い空に浮かぶ。

そういう1日の繰り返しだった。ウサギの首といると、あつという間に星が浮かぶ。

楽しくてしょうがなかった。

今まで、ずっと暇だったダチヨウは、ウサギの首と出会って毎日が楽しくなった。

今日も、星たちが空に浮かぶ時間になった。

ダチヨウとウサギの首は、遊び疲れてワラの布団の上にごろんと寝転ぶ。

「僕ね、1回でいいからなってみたいものがあるんだ」

ゆっくりとダチヨウが言った。

ウサギの首が、ダチヨウにこう訊く。

「何に、なつてみたいの？ ゾウ？ キリン？ ラクダ？」

ダチヨウは、恥ずかしいように顔を背けながら小さな小さな声でつぶやいた。

「…ゾウでも、キリンでもない……ヒトに…なりたいんだ」

「ヒトって言うと、人間？」

ウサギの首は、信じられないような顔で言った。

すると、ダチヨウは何も言わずに、コクリとうなずいた。

「…それが君の夢か。すごいなあ、具体的な夢があるって」

ウサギの首が、ゆっくりと目を閉じながらつぶやいた。

そして、こう続けた。

「僕の夢はね、自分の体を取り返すこと」

くるっとダチヨウが振り向いた。

「君の体は、誰に取られたの？」

「…知らない」

ウサギの首は、まるで他人事のように答えた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0959i/>

死神への招待状

2010年10月14日16時02分発行